

論文要旨

重度アルツハイマー型認知症高齢者との相互作用場面における 看護師のケア提供行為の構成 ーシンボリック相互作用論の視点での検討ー

1. 目的

本研究は、ケア場面での重度アルツハイマー型認知症（以下 DAT とする）高齢者と看護師が円滑にケア提供を遂行する相互作用を検討するために、看護師がどのように DAT 高齢者の反応を捉えてケア提供行為を構成しているのかを探索することを目的とした。

2. 方法

シンボリック相互作用論を理論前提とし質的記述的デザインとした。2 施設の介護老人保健施設認知症専門棟に勤務する看護師 5 名と、研究協力者の看護師がケア提供している重度 DAT 高齢者 6 名を研究協力者とした。協力者間のケア提供場面の参加観察と看護師への観察場面に関する半構成的インタビューを実施し、質的記述を用いて帰納的にデータ分析した。第一段階の分析として場面毎の分析、第二段階として第一段階の分析結果を統合する分析を行った。本研究は、聖路加看護大学研究倫理審査委員会の承認を受けた（承認番号 09-085）。

3. 結果

7 ケア場面のデータ分析の結果、看護師が重度 DAT 高齢者の反応から手がかりを得て次の言動を組み合わせる行為と看護師の判断や意図のみで構成する行為が見いだされた。看護師は重度 DAT 高齢者の言動から、重度 DAT 高齢者が行為を組み合わせたと重度 DAT 高齢者の反応の表示内容を手がかりとし、シンボリック相互作用が成立していると言えない状況でも用いることができる手がかりを多く用いていた。また、看護師は、重度 DAT 高齢者の反応を受けるまたは反応に沿う形で言動を組み合わせる、看護師の判断や意図で言動を組み合わせるという 2 方法で、そして、ケア提供を続けるか、ケア提供行為を働きかけないという 2 方向で行為を構成していた。看護師が場面で活用できる行為カテゴリーの種類は、重度 DAT 高齢者から言語的な理解が得られるかどうかと、重度 DAT 高齢者から手がかりを得ることが可能な言動がみられるかどうかで異なっていた。

4. 結論

看護師は、限られた行為の構成の仕方を効果的に用いることでケア提供を遂行していた。すなわち、看護師は、行為を構成する前段階で重度 DAT 高齢者から看護師を遠ざけない反応が得られる関係を作り、高齢者の言動から明確に解釈できる手がかりを得、場面を展開する主導権を重度 DAT 高齢者の側において働きかけていた。看護師の行為の構成は、ケア提供に必要な動作を規則的に配列することが中心のタスク志向の行為となっていたが、重度認知障害の影響を受けた重度 DAT 高齢者が社会で生活するためには欠かせない支援であると考えられた。また、重度 DAT 高齢者の反応に合わせることでケア提供は展開されており、看護師の一方的な行為ではなかった。シンボリック相互作用の成立は、重度 DAT 高齢者の主体としてのケア参加を確認できるものとして、ケア提供で意識していく重要性が示唆された。